



新春提言

先進的・創造的な気風のもとで、さらなる発展を

日本銀行山形事務所 所長 御船 純

明けましておめでとうございます。

皆様には、日頃より、当事務所の業務運営に多大なご支援を頂いており、この場を借りて厚くお礼申し上げます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

ここ数年、新型コロナウイルスの影響を受けて苦しい時期が続いてきましたが、昨年も、世界全体を揺るがすロシアのウクライナ侵攻により、地政学的リスクが一挙に高まり、資源・穀物価格が高騰するなど、多事多難な年でした。

ただ、感染症については、現在も引き続き楽観できない状況にあるとはいえ、日本国内でも感染症抑制と社会経済活動の両立を図る動きが徐々に進み、一条の光が見えてきた1年でもあったように思います。当地山形でも、地域の皆様の多大な尽力と願いが実り、3年ぶりに中心市街地で開催された花笠まつりの華やかなパレードや、全国的にも有名な秋の芋煮会など、県内各地に久しぶりにハレの日が戻ってきました。経済面では、人々の外出意欲と機会の回復につれて消費が緩やかに増加し、感染症の影響を特に強く受けてきた、宿泊・飲食などの対面型サービスでも改善の動きがみられ始めました。昨年以降は、全国旅行支援などの追い風を受けて、国内宿泊者数は感染症拡大前の水準まで回復しています。この間、企業の輸出・生産動向に目を転じると、自動車向け半導体などの一部を除けば、昨年前半に強まった部品の供給制約が徐々に和らぐなか、振れを伴いながらも持ち直しの基調が続きました。

本年を展望すると、経済の先行きを巡る不透明感が依然として高いなか、こうした前向きな動きが持続するかが鍵となります。なかでも、個人消費と海外経済の動向は注視が必要と考えています。

個人消費は、行動制限や自粛によって長らく抑えられてきたペントアップ消費の強さが、最

近の物価上昇に伴う買い控えや節約志向を上回っているのが現状といえます。ただ、消費の回復が長く続くためには、賃上げを伴う購買力の引上げが重要です。物価の先行きは、これまでコストプッシュ圧力をもたらしてきた国際商品市況や為替相場の動向など、不確実性が大きい状況ですが、既往のコスト上昇が企業収益を圧迫しており、コスト転嫁を徐々に進める動きが続いています。他方で、先行き賃金は労働需給の引き締まりなどを背景に伸び率を高めていくと予想されます。これらの動きが消費に与える影響が注目されます。

海外経済については、世界的なインフレの高まりを背景に各国中央銀行が早いペースで利上げを進め、先進国を中心に減速の動きがみられています。国際金融資本市場では、インフレの抑制と経済成長の維持が両立できるかが懸念されており、海外経済が下振れた場合のリスクにも十分注意が必要です。

ところで、昨年当地では、酒井家の庄内入部400年、山形交響楽団の創立50周年、東北芸術工科大学の開学30周年、山形新幹線の開業30周年など、様々な周年記念が重なりました。明治維新の変革期に逆境から生まれた庄内の絹産業、地域社会と共に日常に音楽がある喜びを育む全国屈指のオーケストラ、アートやデザインので社会課題の解決を目指す大学、日本で初めてミニ新幹線方式を採用した路線、とこれだけ事例を並べてみても、当地では独自の素晴らしい歴史や文化が受け継がれてきただけでなく、時代や環境に応じて、あるいは先んじて、次々と新しいものが生み出されてきたことが良く分かります。こうした柔軟で先進的・創造的な気風が脈々と息づいている当地のさらなる発展、そして、会員企業の皆様のご健勝とご多幸を心より祈念しまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。